

**オイルパームの樹幹(OPT)を利活用した
木質系新素材『南堅材(biolami)』
その物性や背景について**

物性について

評価 基準 製品	曲げ弾性率 (N/mm ²)	線膨張 係数	廃棄性	劣化しやす さ	安全性	加工性	メーカー 価格 (日本国内)
本新素材	11,000	6×10^{-7}	◎	安定	◎	容易	40万円/m ³
WPC	5,600	6×10^{-6}	分解難 CO ₂ の増加	不安定	直射日光で 表面が高温	難 (下穴要)	25万円/m ³
天然木	—	—	◎	不安定	◎	容易	50万円以上 /m ³

何故OPTを利活用するのか

オイルパームとは、マレーシア・インドネシア・タイ・コロンビアなどに植林された椰子の木の種類で、パーム油が搾油できる植物として有名です。

パーム油は食用油等々に利活用されていますが、これまで強度が足らず、建材としての利用価値がなかったことから目立った使い道がありませんでした。

⇒現在は、ただ単に**廃棄物**として捨てられている



何故OPTを利活用するのか

オイルパームは25~30年経過すると、油の収穫量が減少するため、伐採し、植林しなおされています。しかし、伐採された木のほとんどが粉砕かそのまま畑に放置されており、メタンガスの発生や土壌・水質の汚染につながり、温暖化や生態系の破壊を引き起こしています。



何故OPTを利活用するのか

パームホルツでは問題の根幹と
なっている、オイルパームの樹幹
の価値を創出することで経済循環
を生み出し、環境負荷を減らした、
持続可能なオイルパームの生産・
供給体制の構築を目指しています。
この新素材は、要求機能に応じた
成型が可能です。

